



# 滋賀県産科婦人科医会

Shiga Association of Obstetricians and Gynecologists

## 滋賀県産科婦人科医会 会長挨拶

謹啓

時下、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

滋賀県の周産期医療は、2つの総合周産期母子医療センター(滋賀医科大学医学部附属病院、大津赤十字病院)に加えて、2つの地域周産期母子医療センター(長浜赤十字病院、近江八幡市立総合医療センター)でハイリスクの分娩を取り扱っています。そして、その他の分娩取扱施設は、6病院(東近江医療総合センター、甲賀病院、済生会滋賀県病院、高島病院、淡海医療センター、南草津野村病院)と17診療所の27施設に2021年4月からなりました。また、滋賀県の出生数も減少してきており、それに新型コロナが拍車をかけ2021年の年間の出生数は、10,389人となり、2022年には1万人を切る状態(9,971人)になっています。



滋賀県産科婦人科医会  
会長 野村 哲哉

2022年4月1日現在の会員は176名ですが、周産期医療に携わっている医師は約100名です。分娩の60%は診療所で行われており、17診療所の25名の医師のうち15名が60歳を超えています。この現状を考えて安全に滋賀県の妊婦さんに分娩してもらう為に「びわこセーフチャイルドバース ネットワーク」の整備を引き続き目指します。

婦人科腫瘍については、滋賀医大付属病院と滋賀県立総合病院が中心となって行われ、生殖補助医療(体外受精等)は、滋賀医大付属病院以外に7診療所で実施されています。その他30施設ほどの無床診療所では、がん検診、女性医学を中心に地域医療が行われています。

滋賀県下の176名の産婦人科医師は働き方改革が進む中、幸せに生きつつ診療・研究ができるように、また若い医師たちには、産婦人科専門医に加えて、サブスペシャリティ(周産期母体胎児専門医、婦人科腫瘍専門医、内視鏡外科学会技術認定医、生殖医療専門医、女性ヘルスケア専門医等)の獲得を目指して研修できるように医会として尽力していきたいと考えます。

### \*びわこ セーフ チャイルドバース ネットワーク

琵琶湖を取り巻く、周産期母子医療センターと地域の病院と身近な診療所で分娩する。滋賀県の妊娠・分娩・子育てについて、医会としては、分娩施設が小児科・精神科と連携して「もう一人産み育てたくなるような地域作り」を行政と共に目指す。

謹白

令和5年4月1日



## 滋賀県産科婦人科医会事業計画

《2023年4月－2025年3月の滋賀県産科婦人科医会は、以下に示すものを重点項目とします》

1. 県民の安全な出産の追求：  
びわこ セーフ チャイルドバース ネットワークの整備
2. 新生児蘇生法（NCPR）、母体救命システム（J-CIMELS）講習会の  
定期的な医会主催開催
3. 妊娠・出産・育児のための切れ目のない支援  
（産後ケア事業の県内統一展開の実現）  
特に妊産婦のメンタルヘルスケアと特定妊婦対策
4. 妊婦健康診査・産婦健診・新生児聴覚スクリーニング検査の  
公費負担の県下集合契約
5. 会員の知識の brush up：研修会等・ホームページに情報を提供
6. 県下で統一した性教育の充実  
（少子化対策・虐待および性暴力の予防対策として）
7. 子宮頸がん9価ワクチン定期接種・キャッチアップ接種の積極的勧奨
8. 適正なレセプト作成に向けて（医療保険部会と医業推進部会の連携）
9. 滋賀県の国民スポーツ大会2025に向けて、  
アスリートのための女性保健事業
10. 日本子ども虐待防止学会、母と子のメンタルヘルスフォーラムの開催



# 滋賀県産科婦人科医会

Shiga Association of Obstetricians and Gynecologists

## 滋賀県産科婦人科医会役員名簿

(2023年4月～2025年3月)

日本産婦人科医会 地域代表者	野村 哲哉
日本産科婦人科学会連絡委員 地域代表者	村上 節
滋賀県産科婦人科医会 会長	野村 哲哉
副会長	木村 俊雄
	藤田 浩平
	浮田 真吾
理事	村上 節
	桂川 浩
	卜部 諭
	辻 俊一郎
	竹林 浩一
	喜多 伸幸
	中島 正敬
	松島 由生子
	岩下 寿子
	中川 哲也
	高尾 由美
	廣瀬 雅哉
	小野 哲男
	上田 創平
	横井 崇子
監事	神野 佳樹
	初田 和勝
名誉会員	宮本 紀男
	野田 洋一
	増田 幸生
	小笹 宏
	木下 康
	高橋 健太郎
	花田 芳郎
功労会員	鈴木 瞭
	林 嘉彦